

令和5年度岩手県立博物館協議会議事録

日 時	令和6年2月20日(火) 13時30分～15時00分
場 所	岩手県立博物館 会議室
出席委員	阿部俊一、上柿剛、桂川いずみ、太田厚子、細越千絵子、細田清、松政正俊、齊藤邦雄、山本玲子、石川京子 各委員(10名)
県側出席者	〔生涯学習文化財課〕 小澤則幸総括課長、佐藤淳一文化財課長、大沢勝上席文化財専門員 〔公益財団法人 岩手県文化振興事業団〕 藤澤修事務局長 〔岩手県立博物館〕 高橋廣至館長、工藤善彦副館長、高木晃学芸第一課長兼第二課長、鈴木まほろ学芸第二課長補佐、金子昭彦学芸第三課長、佐々木良男総務課長、田原かおり主事

1 開 会	<p>協議会委員総数15名中、本日の出席者は現在10名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第9条の規定により本会議の成立を報告する。</p>
司会進行 総務課長	
2 館長挨拶	<p>皆さんこんにちは、県立博物館、館長の高橋廣至と申します。本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は、どうぞよろしくお願ひ致します。</p> <p>まず、最初に、今年度初めて委員になられた方もいらっしゃいますので、例年のように当館の開館設立について少しお話をさせていただきます。</p> <p>当館は、昭和55年10月5日、「郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与すること」と、「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示、という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰もが、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場を設置する」という基本構想のもとに開館しました。</p> <p>昨年度、改正博物館法が施行されました。「博物館は、歴史文化・自然科学等多岐にわたる文化遺産の保存継承・活用を目的に、社会教育はもとより地域の文化振興を担う中核施設として、あらゆる人々の健全な文化的生活を支えるための不可欠な社会基盤である」として、博物館がより国民の生活に身近なものとなりました。まさに40数年前に、岩手県で博物館が設置された時の基本構想そのものが謳われているように私には感じます。</p> <p>さて次に、私からは現在の状況について総括的なお話をさせていただき、詳細につきましては、この後に担当者から説明いたします。</p> <p>この数年、コロナ、コロナで明け暮れて来ましたが、コロナも5類となり、やや落ち着いてきた今年度は、徐々にお子様から高齢者の方まで入館者が増えてきております。今年度は「ポケモン化石博物館」展もあり、最終的な入館者数は6万人を超え、過去25年間の中では、最高入館者数になる見込みです。</p> <p>次に、今年度の展示会についてですが、昨年3月から5月まで「新収蔵資料展・自</p>

然史系」を開催しました。また、6月から8月まで「五大ダム探検大作戦」と題し、国土交通省や北上川ダム関係事務所等と共同で岩手のダム展を。9月から12月までは「早池峰山の花と森」展を開催しました。そして、現在、国立科学博物館とポケモン社のご協力により「ポケモン化石博物館」を開催していますが、この日曜日に入館者数3万人を達成しました。そして今年度の最後の展示会は3月23日から5月19日まで「ラグビーといわて」展を開催する予定です。

今年度も、展示はもちろんのこと、収蔵庫にある資料等を活用しての部門毎の「トピック展」や自主事業等を実施してまいりました。手前味噌ではありますが、職員は労力を惜しまず、様々な工夫をして、来館した方全てに楽しんでいただくことを念頭に仕事をしております。また、当館で人気があります地質観察会、自然観察会、そして、子ども達との様々な事業等も今年度は参加者が増えてまいりました。今後でもできり限り参加される皆さんの希望を取り入れながら実りのある事業にしたいと考えています。

次に、博物館と学校の連携、いわゆる「博学連携」についてお話しします。これまで当館は、各学校を訪問しての「出前授業」の他、多くの学校と多岐に渡り連携を深めて参りました。この数年は、青松支援学校や盛岡峰南高等支援学校、平舘高校、桜城小学校等、それぞれの学校の特色に応じた授業連携や共同制作連携を行っています。博物館としてどのような役割ができるのか、今後もお互いに知恵を出し合いながら連携を深めて参りたいと考えております。

次に、毎年お話ししております当館における陸前高田市の被災文化財修復作業ですが、今年度で12年目を迎えました。残りの被災資料もあと少しとなりました。最後の1点を修復するまで頑張りたいと思います。

また、当館では、文化庁の助成金によって防災教育に取り組んでいます。今年度もこれまで様々な被災を受けた地域、長崎雲仙、神戸や淡路島の被災地と防災ネットワークを結び、被災当時から今に至るまで、それぞれの取り組みを学び合いました。また、沿岸地域の高校生も参加して、全国の防災状況等を学んでいただきました。

次に、県内市町村の各関係機関からの要望の多い「文化財等取扱講習会」ですが、今年度は2回実施しました。特に、文化財施設に勤務して間もない方にとっては、貴重な講習会であることから大変好評です。

最後になりますが、昨年度も委員の皆様からは当館に対して多くの貴重なご意見をいただきました。一年間、様々な機会を捉えて改善に努力して参りました。まだまだ十分な改善が出来ていないものもありますが、今年度も忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。

3 委員紹介

出席委員紹介

4 職員紹介

出席職員紹介

5 会長選任

太田委員を会長に互選。
会長から職務代理者に阿部俊一委員を指名。

<p>〔会長あいさつ〕</p>	<p>滝沢市教育委員会教育長の太田厚子と申します。館ができた時から子供とともに通わせていただき、学ばせていただいたところであります。本日はこのような会の会長を務めさせていただくという機会を得まして、本当にありがとうございます。皆様とともに博物館についての学びのため、それからこの協議会の益々の発展のためということで議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>5 議 事 (1) 報告事項 〔太田議長〕</p>	<p>それでは議事に入らせていただきます。最初に次第の6(1)報告事項ア「令和4年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」を議題とします。事務局から説明願ひます。</p>
<p>〔事務局〕</p>	<p>総務課長から資料により説明。</p>
<p>【質疑応答】 〔阿部委員〕</p>	<p>私、東松園小学校長です。本校でも子供たちは、博物館に歩いて来れますので、各学年一年間に1回くらいは来させたいということで研修もやっていました。3年生以下は1回ずつ来ていました。</p>
<p>〔金子課長〕</p>	<p>学校公開がある年で、上の方の学年はちょっと来れないが、(配付資料：令和4年度年報)37ページからの講座をみると小学校のものも結構たくさんある。学習内容からいいますと、ここにあるように、考えられるのはこのようなものかなと、ほかにもちょっとあると思うんですけども、出前講座は、こういうものがありますよと示されていて、その中から選ぶような方式になっているのでしょうか。</p>
<p>〔阿部委員〕</p>	<p>メニューがホームページにあります。ただ、別にその中からどうしても選んでいただきたいわけではなくて、一つの参考としてこういうことができますと提示しているだけなので、博物館でこういうことをやっていただきたいというようなご相談をいただいて対応するような形で、各学校から相談を受けてやっております。</p> <p>何のとっかかりもないと頼むほうも困るのかな、ということで一応のメニューを提示しております。</p>
<p>〔太田議長〕</p>	<p>とっかかりという話も、持ってきていただいた方がやりやすいのかなと感じるところです。計画を立てるところまでがハードル高いようですので、「こういうものがありますよ、過去にこういったものやりましたよ」ということが示されていたほうがいい。うちは近い学校ですので、こういったものをどんどん利用して、博物館の方に学校に来てもらうだけではなくて、私らも博物館に来て一緒に授業をやるといったものを考えられればいい。他校の応援になっていければいいと思っておりますので、是非今後ともよろしくお願ひします。</p>
<p>〔松政委員〕</p>	<p>次の事業実施内容等にも少しかかわるようなことで御意見をいただいたところであります。ありがとうございます。</p>
<p>〔松政委員〕</p>	<p>ひとつ私も教えてほしいのですが、6ページに岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会の研修とあるが、具体的にどのようなことをされているのか。</p> <p>私、生物が専門ですので、具体的にどのような博学連携をやっているのか教えてい</p>

<p>[鈴木補佐]</p>	<p>ただければ。</p> <p>展示や標本の解説ですとか、高校生物の教科書の一部の内容についての講演ですとか、あるいは骨格標本などを扱った授業など、講習形式のことをやることもあります。また、高校生の自然科学部員の方々の研究発表の場としてこちらを使っています。</p>
<p>[松政委員]</p>	<p>高校生の研究発表は、今、トレンドとしては？</p>
<p>[鈴木補佐]</p>	<p>トレンドとしては、自然科学部の数がだんだん減っていると伺っています。活発なところは熱心に日々先端の研究を行っている伺っています。</p>
<p>[松政委員]</p>	<p>理科部会の利用は博物館側から提案するのか、それとも理科部会側からくるのか。</p>
<p>[鈴木補佐]</p>	<p>当館生物の学芸員側からこんなような内容でという提案をしています。</p>
<p>[松政委員]</p>	<p>そのねらいはやはりその、理科系であればサイエンスリテラシーを高校生に伝えるということを考えている？</p>
<p>[鈴木補佐]</p>	<p>そうですね。博物館の実物資料を活用していただくと、より授業の理解の助けになるということもあります。</p>
<p>[松政委員]</p>	<p>わかりました。大学も高大連携でやっていくということも可能なので、博物館も三者連携で頼みます。ありがとうございます。</p>
<p>[太田議長]</p>	<p>他に質問・意見等ございませんか。</p> <p>それでは、実際の事業内容にもかかわってくる点も多いので、先に進めながら話し合いの内容を深めて参りたいと思います。</p> <p>それでは、報告事項のイ「令和5年度岩手県立博物館事業実施状況について」を議題にします。事務局から説明願います。</p>
<p>[工藤副館長]</p>	<p>副館長から資料により説明。</p>
<p>[太田議長]</p>	<p>それでは、ただいまの説明に対し、質問等ある方はご発言願います。</p>
<p>[齊藤委員]</p>	<p>資料11ページの文化講演会ですが、この時にお呼びする講師というのは、けっこう高名な方をお呼びしたりしています。これは、例えば、各年毎に人文系とか自然科学系とか、交互にやるとか、そういう約束事とかあったりするものでしょうか。</p>
<p>[金子課長]</p>	<p>基本的にその時にやっている展覧会の担当者が決めるような形になっています。</p>
<p>[齊藤委員]</p>	<p>12ページ、教育普及事業の文化財等取扱講習会について、対象はどうなっているか。</p>
<p>[鈴木補佐]</p>	<p>こちらは主に市町村の博物館ですとか、文化財を取り扱う業務にあたっている方のうち、新任の方を主な対象としておりまして、初任あるいは1年少しの方とかを中心に御参加いただいております。</p>
<p>[齊藤委員]</p>	<p>というのはですね。おそらく県教委も文化財の講習会毎年やっているはずですし、愛護協会も文化財の研修会をやっているはずですよ。そして県博さんもやっていると。それぞれ対象が若干違うかもしれませんが、この辺、もう少し整理なりすれば、もっと市町村の文化財担当者の人たちも吸収の度合いが増えるのではないのかなという気がします。もし、可能</p>

	<p>であれば検討頂ければと思います。</p> <p>それからあと1点ですが、13ページ、資料収集保管事業のレプリカ制作なんですけれども、これは作るものによって金額が違うのでしょうか、毎年いくらくらい予算措置がされているものですか。</p>
[高木課長]	<p>およそ百万円程度です。</p>
[齊藤委員]	<p>そうすると、作っても1点か2点。</p>
[高木課長]	<p>そうですね。現状ではレプリカですと1点に限られる。</p>
[齊藤委員]	<p>今年度の場合、平泉関連資料を作ったとなっていますが、具体的には何を作ったんですか。</p>
[高木課長]	<p>これは平泉ガイダンスセンター所管で平泉関連資料の複製と聞いていますが、今ちょっと手元にないので。</p>
[齊藤委員]	<p>それが気になった。せっかく作るのであれば、平泉関連のものであれば、平泉の県のところと相談してやれば、県博でも使えるし、当然向こうでも展示で使えるというようなこともあると思うので、お互いが使えるものを作ればいいと思います。</p>
[高木課長]	<p>情報をやり取りして相談しながら進めていければと思います。</p>
[高橋館長]	<p>先ほどの文化財等取扱講習会なんですけど、ほとんど予算ゼロでやっています。市町村からは、基礎的なことについて初めて文化財に携わる人には本当にいい講習会なので是非やってほしいと言われるので、予算がないのでやめるというわけにはいかない。今まで年1回の開催だったのを、今年から2回開催としました。これはやめられないのでですね、みなさん期待が大きいので、今後ともこのような形で続けていかなければならないなと思っていました。</p>
[齊藤委員]	<p>埋蔵文化財センターでは市町村担当者等を対象として埋蔵文化財技術者講習会を開催し、最新の考古学的な手法とかを紹介したりしており、文化財愛護協会では法的な基礎的なものを、毎年4～5月に県立博物館の会場を借りてやっているはずですよ。だからそういうところをお互いタイアップすれば、結構効率よくできるし、いろんなことを学べるのかなと思ったところです。</p>
[高橋館長]	<p>もう一つ、先ほど出前授業の話がありましたが、前館長が、学習指導要領に準じた教科書に出てくるような資料の中に岩手県の中で発掘されている資料があるか、ということで、それを全部調査してホームページに載せたんです。私もそのことを「こういうものがあるので是非見てほしいし、こういうものがほしいので持ってきてほしいとか、博物館に行く場合に用意してほしいとか、是非言ってください。」と校長会で話をしているのですが、そこがよく伝わらず宣伝不足かなと思ってます。調査に対しても膨大な時間がかかっていますので、是非、授業等に利用していただければいいのかなと思っています。</p>
[阿部委員]	<p>ありがとうございます。なかなかわからない部分も多いですし、私もですが、各校でも知らないでいる学校も多いのではないかと思います。校長会のひとりとして機会を見つけて紹介させていただければと思います。</p>
[高橋館長]	<p>文科省でもそういうようなことを調べていて、岩手県立博物館で学習指導要領に準</p>

	<p>じて発表しているということで、あとからすごく褒められたところです。</p> <p>また、博学連携については、日本博物館協会から「学芸員が学校に行って授業をして、先生を楽にするためのものではありません。」とされています。授業をするにしても、本当はお互いに研究会を作るなどして、この部分では先生が、この部分では学芸員が、というような役割分担をしながらやるのがいいと。なかなか難しいんですが、今はそのとっかかりとして青松支援学校に行っているのですが、中には学芸員になりたいという生徒さんがいたりして、その学芸員が帰ってから、そのように言われました、というので、それは一番の誉め言葉だね、と言ったんですけども、そういうような博学連携もありなのかなと思っております。</p>
<p>〔太田議長〕</p>	<p>コロナ禍で3年間くらい、学校の見学学習というものが行われないう状況でしたが、これからは、本物に触れ、体験を大切にすることで、施設の利用ということを教育関係の方へ発信していくことが大切だと改めて実感されたところです。</p> <p>ほかにかがでしょうか。</p>
<p>〔山本委員〕</p>	<p>ポケモン化石博物館なんですけれども、テレビでもコマーシャルを拝見しました。入館するためには電話で申し込みをして、駐車場を利用する方は予約が必要とのことです。この辺のところはスムーズにいらしているのでしょうか。こういうことって初めてのことでないかと思ひまして、いつも自由に入っている人たちがそういうことだと煩わしいとか、そういったようなご意見とかはないのか、それから、受付をする場合、電話が殺到して混乱などはないのか、お聞きしたい。</p>
<p>〔佐々木課長〕</p>	<p>ポケモン展の受付の関係ですが、予約制とさせていただいております。これは当館の駐車場台数に限りがございます、なかなか近隣の駐車場もないということで予約制とさせていただいておりますが、中にはネットが苦手な高齢の方などからの電話は来ております。その際には電話で住所・お名前をお聞きしましてこちらのほうで予約をするという形で進めさせていただいております。問い合わせの電話が殺到というくらいまで混み合っている感じではなく、問い合わせは結構ありますけれども、最初こちらが心配したような混乱もなく、順調に回している感じです。岩手県の方は特にまじめな方が多いという印象です。</p>
<p>〔高橋館長〕</p>	<p>車社会なのでどうしても車で来たいという方がいてですね、やはり駐車場が一番のネックかなと思っているところです。</p>
<p>〔太田議長〕</p>	<p>駐車場が満杯になっている様子を見て、うれしいなと思っていました。また、地域住民以上に外国の方をはじめ、周りの方々が、ホームページやネットとかで調べてこちらを訪ねてくださっているということを感じているところでした。</p> <p>それでは一旦先に進めさせていただきます。</p> <p>「令和6年度博物館事業計画（案）について」を議題とします。</p> <p>事務局から説明願います。</p>
<p>〔2〕 協議事項 〔工藤副館長〕</p>	<p>副館長から資料により説明。</p>

<p>【質疑応答】</p> <p>[松政委員]</p> <p>[鈴木補佐]</p> <p>[松政委員]</p> <p>[太田議長]</p> <p>[山本委員]</p> <p>[高木課長]</p>	<p>16ページの教育普及事業について、自然観察会は6月と10月に予定されているようですが、これはどういう観察会を予定されているのでしょうか。未定であれば未定でもかまいませんが、何かあれば教えていただきたい。</p> <p>87回で今計画しているのは大船渡市の山での昆虫の採集・観察を考えています。88回では、この頃開催している企画展「捕食者の献立」と絡めまして、盛岡市動物公園にお邪魔して肉食動物の行動等、動物公園の職員の方に解説をいただきながら観察することを企画しています。</p> <p>私も今の企画展との関連が気になったので、6月の観察会でも大船渡で昆虫を扱えばクモとかの捕食者もいますので。それから、沿岸の学生さんとか、高校生にしてもなかなか博物館に来れないと思うんですが、例えば今回の展示とか、実物を観るのが博物館のねらいでしょうけれども、例えばオンラインでこういうことやってるよ、というようなことをされたことがあるのかということと、今後やる見通しがあるのかということをお聞きしたい。なぜそう思ったかということ、学習指導要領の変更で情報がずっと大学の方までできましたので、小中高のオンラインの状況がだいぶ整ってきていると思うんですね。ですから、コロナ前と違ってそういう環境でできると思うので、それは博物館としても、こっちに来てもらうために使っていいんじゃないかなと思いましたので。</p> <p>確かにコロナ禍の中で、ICT環境は各校整ってきましたので、足掛かりにしていきたいと思います。</p> <p>前にテレビで博物館に行く癒しの効果があるというのをやっけていまして、いい話だなと思ったんですけども、それが科学的にはどうか分かりませんが、私としましてはやはりそういう効果ってあるんじゃないかなと思っていました。それで、博物館に足を運んでいただけるような取組ということで、ホームページも充実しているのですが、すべてホームページをみればわかってしまうという感じではなくて、何かこう博物館に足を運ばせるような、チラ見せみたいなの、ちょっと見せみたいなのホームページもいいのではないかなと思っております。</p> <p>昨年度を取組状況で少しご説明しました館内の3D用のサイトですけれども、ホームページから館内の展示の主要な部分をご覧いただける仕組みです。見ていただいて、多分そこで満足しないので、こんなものがあるんだというのをよりリアルに感じいただき、来館して観ていただくというような仕組みというのは、整えつつあるという状況です。</p> <p>それから、うちのホームページということではなくて、ここ2～3年、ツアーの会社ですとか、いろんなマッチングアプリで「デートを博物館でしませんか」というような全国を対象としたサイトがありまして、中身を見てちょっとふさわしくないようなものであれば断ろうという形でよくよく吟味していますけれども、まじめにいろんな博物館を取り上げていただくサイトがあります。実際にそれをご覧になって来られている方もチラホラいらっしゃいます。</p>
--	---

<p>〔高橋館長〕</p>	<p>ポケモン化石博物館ですね、来たことがなかった同級生がお孫さんを連れて来て、初めて来た。私は「初めて？」と怒るんですけど、そういう方のためにもこういうイベントもいいのかなと思ったりしています。特に高齢者の方はホームページも見ないので、どのようなやり方がいいのかと思っているのですが、私の親戚とかに「博物館に来たら？」といたりすると、年取った人は、博物館って俺たち行っていいの？っていうので、よく聞くと、そこは勉強しに行くところで私たちがいくところじゃない、という人がまだいるんですよ。そういう人たちが来て、昔のアイロンとかですね、テレビとか冷蔵庫とか、今と違うものを見ると、皆さん、ああ～、こういうもの博物館にあるんだ、というようなことを言ってくれるので、その辺の宣伝をどのようにしていくかとか、介護施設とか、デイサービスとかにも来てもらうためにはどうしたらいいかなとか思うんです。たぶん来ていただければ、すごく喜んでもらえるものがいっぱいあるんじゃないかと思っていますんですけど、まだまだ宣伝が足りないのかなと思っています。</p>
<p>〔太田議長〕</p>	<p>博物館の事業計画を議題としてきましたが、その他に入らせていただいて、皆様方からせっかくですから、感想とか、何かこんなことを考えます、ということをお話しいただければと思いますが、よろしいですか。</p>
<p>〔上柿委員〕</p>	<p>昨年度も委員をさせていただいて、委員として責任を感じて、いかにしたら高校生を博物館に足を向けさせることができるだろうかといろいろ考えてきました。ただ、高校生になるとなかなか、授業とか、学校としての取組とかというより、やはりどうしても部活動単位であれば、ということですね。</p> <p>自然科学部とかは、確かにこちらの方に来ての取組もあったようですが、先ほど自然科学部会の中でも生物部会の研修会をこちらでやらせていただいているという話がありました。ただ、高校の自然科学部会は、物理・生物・地学・科学の4つの部門があります。こちらは、生物あるいは地学であればということにして、ほかの2つの物理・化学は対応が難しいかなと。今は地学部会の方で何か活用の機会はないかと話をしているところです。</p> <p>それから、ポケモン展は非常に人が入っているということですが、黒字・赤字、どちらか、まあ、黒字であれば毎年特別展をやればいいわけですけども、まあ、そうじゃないからできないのかと感じています。これを機会に入館者が増えたということですので、こういった企画がもっともあっていいというのが正直な話です。</p> <p>あともう一つ感じたのは、さきほどズーモの話が出ましたが、今、ZOOMOクラブということで、中高生のクラブができて、いかにして動物公園に人を呼ぶかという活動をしている中高生のグループがあります。同じように高校では総合的探求の時間でさまざまな市内のテーマ、県内のテーマ課題を取り上げて、その課題解決に向けてやっているところです。館長さんには、毎年4月の校長会に行ってお話しされますので、その時に総合的探求の時間のテーマとして呼びかけてみてはいかがでしょうか。いかにして博物館に人を呼ぶか、若者を呼ぶかという、そういうようなテーマを投げかけてみて、もし、いい研究が出てきたところには何かご褒美をあげるとかしてですね、少しでも子どもたちに考えさせるチャンスを与えてもらえれば、と感じておったところです。</p> <p>あとは、写真撮影ですか、普段は立ち入れない場所に立ち入っての写真撮影ができる、という企画も結構評判だという。そのような特別感を感じられるような場があればもっといいと感じたところです。</p>

<p>[桂川委員]</p>	<p>小中学生とか、保育園等の子供たちというのは、よく博物館に足を運ぶのかなと思います。自分も子どもの頃に親に連れてきたもらったのが初めてで、やはりそこから始まるのかなと思うのですが、大きくなるにつれて、やはり高校生ぐらいからちょっと縁遠いものになってしまう。私は、大学で埋蔵文化財のことを勉強していたので、こちらのほうにも授業で通わせていただいたり、震災、復興の文化財のボランティアをさせていただいておまして、そういう関わりがあるからこそ、また来ようかなと、大人になっても関わるというか、いろんな博物館にも行くのですが、機会がない友達や同世代の人達とかには、博物館に行こうと誘ったり誘われたりするとは無かったりで、やっぱりこう、ハードルが高いのか、行こうとはならないのが現実かなと思っています。自分も学んできたというのもあり、是非とも広めたいと思っていたところだったので、観察会であったり、講演会であったり、この情報が届けばいいなと思いました。</p> <p>さきほど「博物館をデート先にする」という話を初めて伺いましたが、すごくいいなと思って、静かだし、ちょっと暗かったり、なんかこう悪くないなとか、そういうふうな自分がそう思ってもいなかった角度から攻めてPRしているというのを初めて知ったので、自分も来てみたいなと思いましたし、別の方法で若者といえますか、なかなか来ない世代に情報が届いたり、魅力的だなと思ってもらえるような企画とかあればいいなと思いました。今は何もアイデアはないのですが、思いついたら発言させていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。</p>
<p>[細越委員]</p>	<p>博物館にはたまにお邪魔させていただいて、今年も5大ダムの展示とか、早池峰山とかすごく興味深い展示があつてよかったなと思っているのと、私、トピック展が大好きなんですけれども、小山怜央四段がプロ棋士になったということが県内でも話題になったと思うんですけれども、小山四段のトピック展をやつていまして結構大きな枠でかなり興味深い、個人的にも小山さんのいろいろな経歴とか、大学生の時に奨励会編入試験にいていたことも知っていたので、こういった流れがあつたんだなあと改めて振り返れたのと同時に、将棋の江戸時代とか近代将棋の本とかを展示されていて詰将棋とかもあつてすごく興味深いものでした。その感想を言って終わりと思つていたら、来年度、囲碁将棋をやるというので、楽しみなんですけど、これは囲碁もということなんですけども、何かイベントで普及活動に関わるようなところとか予定はされているんでしょうか。</p>
<p>[金子課長]</p>	<p>岩高の将棋教室とか予定のようです。担当者でまだ進行中のものなので、確定したものはわからないのですけれど。</p>
<p>[細越委員]</p>	<p>岩高さんが入っているのであれば確実だと思います。テレビとかで藤井聡太八段のことはご存じかと思いますが、藤井四段で出た時もブワーっとすごく人気が出まして、うちの子供も将棋をやつた時だったので、すごいなと思つてはいたのですけれども、あれよあれよと昇段してなるんですが、そこで始めた子どもたちもすごいっばいいたんですけど、一気に減ったんですね。やっぱり、継続するのって大変なんですよ。やはりちょっと勝つて楽しいと思つているうちはいいんですけども、そこでいろいろと淘汰されていくのはこの世界でもあるんですけれども、夢は持っていたけど、プロ棋士になりたいと思つた子供たちはいっぱいいたけれども、なれる子はほんと一握りという、そこまできなくても、県大会で優勝するというのも難しいもので。</p> <p>ちょっと話はずれるかもしれませんが、博物館に小さい子供たちが来るんですけれども、その子供たちが中学、高校となかなかそのまま継続しては来なくなる。別の趣味とかスポーツとか勉</p>

<p>[松政委員]</p>	<p>強が忙しいとかになってしまうというところが、なんかこう私の中ではいろいろとリンクするところがあって、思うところがあります。</p> <p>将棋の普及イベントがあるのであれば楽しみにしたいと思いますし、個人的な感想ですが、その次の驚異の部屋では、今まで展示されていないものが展示されるというのがすごく楽しみに思っていますので、是非、私たちを驚かせていただきたいと思います。</p> <p>たくさん話したので、2点だけ。まず、デートは私もいいなと思います。この場所が地の利が良くないというのが前から話題になっていましたけれども、逆にデートにはすごくいいのかなと。それに若い人だけではなくて、老夫婦のデートとか、そういうのが整えばいいんじゃないのかなと。あそこの階段の工事が終わると、なおいいかな、と。</p> <p>それから今、細越さんの話を聞いていると、いつも配付されてくるのをちゃんと全部見てないのですが、もし今までなければ、こういう博物館をよく知っている方に寄稿していただいて、トピック展の話とかを載せる、そういう声を来館者の目線でよく知っている人から発信するといのかなという感じがします。</p>
<p>[山本委員]</p>	<p>1点だけ。この前、岩手日報を見ましたら、日曜論壇のところに「地球の大先輩に想い馳せ」っていう投稿で、53歳の盛岡市の女性の方がポケモン化石博物館をご覧になってのことを書いてありました。この文章を読んで、人によっていろんな見方があるんだなってことを深く感じました。</p> <p>これからも博物館のテーマ展、企画展楽しみにしております。</p>
<p>[石川委員]</p>	<p>ギアナ高地の地殻変動の成り立ちで天然記念物がここにあるというのをテレビで知り、表示してほしいといたら、即、表示がしてありました。ありがとうございました。それから、さきほどでていましたバスの便のことについても、お話ししましたら、早速博物館だよりの後ろの方の交通アクセスの所に載ってたので、これももしかして毎回博物館だよりに載っているのかなと思って確認したら、やっぱり毎回載ってないんですね。それで私が意見言ったので載せていただいたのかどうかはわかりませんが、即、次号に取りあげていただいてありがたいなあと思いました。</p> <p>それから、日曜講座、私も楽しみにして毎回来ているのですが、レベルの低い話なんですけど、ダムの講座の時に高校生が来ていたんですね、たぶん工業高校の生徒だと思うんですけど、すごく私は中身も感動したんですが、私たち一般の世代に高校生が十何人真ん中にいたということがすごく感激しまして、すごくいい風景だなと思ったんですね。それこそ博物館というのは年齢を問わずに誰でも来て勉強する場なんだなっていうふう実感しました。引率する先生は今いろいろ難しい時代ですので、何かあったらということで先生たちも大変だと思うんですけど、高校生の若い男の子たちを見て何となくほんわかしたような印象を受けました。</p> <p>それからコロナが5類に移行して、一気に行事がバーっと出てきて、県の芸術祭と博物館まつりの日程が重なってしまったんです。それで私どっちも好きなんですけど、もったいないなと思いつつ、すみません、芸術祭の方へ行っちゃいました。それで、私がいつも植物園と岩石園の解説を聞きたいなと思ってたのが、その次の日だったんです。だけどそれは子ども用だったんです。それで子ども用でも私は十分なので、子ども用でもいいのかなと思ったんですけど、なんとなく子ども対象と書いてるので、お年寄りが行ったらまずいかなと思って遠</p>

慮しました。またチャンスがあったら、是非、岩石園と植物園を見たい、解説を聞きたいと思っています。

ポケモンのお話ですけども、私もポケモン、漫画くらいには知らなかったんですね。私たちの世代は漫画って一段低くて、マンガ読むとバカになるって育った世代ですので、全然わからなかったんですけど、コロナでずっと行事もなくて、そういうところに案内状が来たので、やじうま根性でセレモニーに出席させていただきました。それで、いやあ、すごいもんだなと思って、感心して、目からうろこではないんですけども、先ほど山本委員がお話した日報論壇に出ていたような、ああ、こういうふうな見方があるんだな、と。私は爬虫類と哺乳類の歯の違いも初めて知ったくらいですので、いろんな見方があるんだなと感心して参加させていただきました。幼稚園の子供たちがすごくかわいくて、博物館って誰でも来て、自由に、こうやって遊びの場で学べるっていうか、そういうところでいいんじゃないかなって思ったんです。公民館とかに行くと博物館からのお知らせとかいっぱい宣伝してるんですが、興味のある人と無い人、全然関心の度合いが違うので、どうやったらみんな関心持つのかなと。私はあちこち関心だらけなんですけど、気のない人に誘っても、と遠慮しています。また今年度も楽しみにして日曜講座とかいろんな行事に参加させていただきたいと思います。

[齊藤委員]

2月3日か7日の岩手日報に国立科学博物館の館長さんのインタビュー記事が出ていたけども、クラウドファンディングで9億くらい集まったと。それを今後地方の博物館にも還元したいみたいなことが書いてあったので、まず積極的にそういう機会を捉えていけばいいのかなと思いました。それから同じくその館長さんは、やはり博物館というのは、また見たくなるような仕掛けをしなければならないと、また、本物を展示することだと、いずれ体験と本物ということを力説しておられました。私共も、そういう姿を目指していければなと思っていました。今後の健闘を期待しております。

[細田委員]

県博さんの事業ではなかったのでもちよっと横道にそれる話かもしれませんが、先日亡くなった小澤征爾さんが2002年に岩手県に若い演奏家さんを連れて巡業されて、県立博物館でも階段のところのホールに人がズラッと埋まって、あれは本当に忘れられない、こんなに人が来るんだな、と。つまり、何が言いたいのかというと、すごいコンテンツがあると、ここは市内から遠いと言っても人はくるんだな、パワーがあれば、というのを思ったんですけども、ちよっと全然話が違うのかもしれませんが、今回のポケモンも普段の県博さんの展示とは異色のものだとは思いますが、こうやってポケモンはわかるんだけど化石と結びついている展示が、それだけ人気を博するのかなと、内心ちよっと失礼ながら思ったんですけども、2か月で3万人ということは、とんでもないなと。切り口とか、こうあるべきみたいな視点を変えたりして面白いものを作れば、こうやってお客さんすごいくるんだなというのを拝見しておりました。ですので、毎回はできないのかもしれませんが、時々、活性化のためにこういうちよっと面白いものをしていただければいいのかなあと思ったりしておりました。

せっかくですので何か、ポケモンの今回の展示や、どういうふうな受け止めて、どういうことを感じておられるのか、というお話も、もし、伺わせていただければなと思っておりました。

[太田議長]

突然のご指名にも関わらず、みなさまからさまざまなご意見をいただくことができました。ありがとうございます。

それでは、今回のポケモン展も含めまして、ご努力に感謝しながら、事務局の方から何か

<p>[高橋館長]</p>	<p>ございませんでしょうか。</p> <p>今のポケモン展の話なんです、全国8館目で東北では最初ということで、当館の学芸員がどうしてもこれをやりたい、東北で初めてであり、特に岩手の子どもたちに見せたい、と。</p> <p>私、東北で一人国立科学博物館の理事をやっているんですが、そういうこともあって、さきほどの話の篠田館長にも会って、何とか岩手県でやらせてくれないかと言ったら、よし、是非岩手でやってくれという話でありがたい気がしています。</p> <p>国立科学博物館には、いろいろ時間があつた時に寄らせてもらっているんですが、年に3～4回は行っているんですけど、いつもこの国立博物館を岩手の子供たちに是非みせたいなという思いです。本当に格差社会だなんて思ったりしています。</p> <p>このポケモンはですね、何とかして岩手県に持ってきて見せてあげたい、というので、多くの方に来ていただいてありがたいなと思っています。ただ、驚いたのは先ほど出ましたけれども、県外ナンバーがすごく多くて、すごい人気なんだなあと。外国の方かですね。</p> <p>あと、人によって、幼児から高齢者まで見方が違うので、ただ見て楽しいという人もいれば、中学生ぐらいになると、じっと見て化石とポケモンとどういう違いがあるのかなと、いうように見ている方もいるので、持ってきてよかったかなと思っていますし、さきほどお話ししましたように、それによって入館者数が6万、7万近くいくのかもしれませんが、初めて来た方がですね、いろいろな常設展も見させていただいて、県博を知ってもらうというのも非常によかったかなと思っています。</p> <p>なかなかそういう企画というものもお金の面もあるので難しいかもしれませんが、できるだけ県教委とも相談しながらこういう企画展を持ってこれればなと思っています。</p>
<p>[太田議長]</p>	<p>館長の熱い思いを語っていただいたところで、あと、事務局から何かありますか。</p> <p>ないようですので、以上をもって終了いたします。ありがとうございます。</p>
<p>7 御礼の挨拶</p> <p>[高橋館長]</p>	<p>長時間にわたりまして貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。冒頭にも話しましたが、コロナで博物館もなかなか人が入らず、苦しめられてまいりましたが、ようやく今年度になり人も増えて参りました。早く昔のように心から楽しむことができる博物館に戻りたいというふうに思っていますが、まだまだやはりお客様の健康、安全には十分気を付けながらやっていかなければならないと思っています。また来年度からの様々な事業に挑戦し、県民の皆さんに喜んでいただける県立博物館であり続けたいと思っています。最後になりますけれど、昨年、博物館法が改正され、新博物館法では、有識者からの意見を聴くことが明記され、義務付けられています。当館では、本日のように毎年委員の皆様からご意見を伺い、博物館運営・経営に生かして参りました。今後、さらにご意見を伺いたいと考えております。委員の皆様におかれましては、大変お忙しくお過ごしのことと存じますが、展示会開催時は勿論のこと、機会のあるごとにお越しいただきご指導を賜りたく、お願い申し上げます。本日は長時間本当にありがとうございました。</p>
<p>8 閉会</p> <p>[総務課長]</p>	<p>(特別展を御案内)</p>